

日本の始まり

榑原



Kashihara

奈良市に次ぐ県下第二の都市「榑原市」は中南部地域(中南和エリア)の中核都市。第一代天皇・神武天皇が即位したといわれる地に創建された榑原神宮や、日本で最初の都とされる藤原京跡地など、日本の原点とそれを取りまく史跡が数多くある歴史ある都市。榑原市・桜井市・明日香村にある史跡を「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」として2024年にユネスコの世界文化遺産登録を目指している。

第二代天皇・神武天皇



▲榑原神宮前駅

私たちが今日、日本神話として親しんでいる数々の物語は、主に8世紀初頭に編纂された「古事記」と「日本書紀」に記されているもの。この2つの書物は国内向けと国外向けという違いはあるが、世界の始まりから神武天皇の建国に至るまでを記すことで、天皇家が正統な支配者であることを伝える目的がある。今回は神代の時代最後の地「榑原」を訪れた。

最初は榑原神宮。近鉄吉野線の榑原神宮前駅で下車し10分ほど歩くと表参道広場と一の鳥居が見えてくる。広場には手づくりだんごのお店もあるの、ひと息入れてからお詣りす



▲深田池



榑原神宮 一の鳥居

見どころ豊富な奈良 中南和

榑原では藤原京跡にもぜひ訪れてほしい。藤原京は古事記と日本書紀の編纂の命を出した天武天皇の代に造営された日本でも初めての本格的な都。694年から710年に平城京に遷都されるまでの16年間、都とされた。中心であった一角に支柱が設置され公園のように保存されているのだが、近くにある榑原市藤原京資料室で放映されるアニメーションで天武天皇と持統天皇の思いを知って訪れることで、悠久の時代が感じられる。

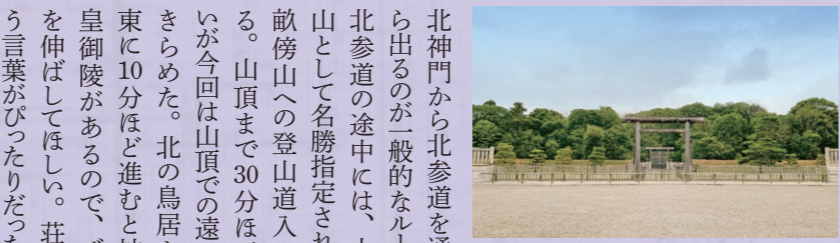
▲大神神社

北神門から北参道を通って北の鳥居から出るのが一般的なルートだ。北参道の途中には、大和三山として名勝指定された二つ畝傍山への登山道入口がある。山頂まで30分ほどらしいが今回は山頂での遠望はあきらめた。北の鳥居から北東に10分ほど進むと神武天皇御陵があるので、ぜひ足を伸ばしてほしい。荘厳という言葉がぴったりだった。



▲神武天皇御陵

南神門に戻り門をくぐると広大な外拝殿前庭。中央の外拝殿で参拝して社務所で御朱印をいただき、



▲榑原神宮 外拝殿

るのもいい。一の鳥居から二の鳥居までは大参道が真っすぐ延びており、両側には榑の並木が続く。二の鳥居を過ぎて右手の南神門をくぐると拝殿があり参拝できるのだが、先に左手にある南手水舎奥に進むルートをおすすめしたい。少し歩くと深田池があるからだ。約4万9500平方メートルの水面には多くの水鳥が気持ちよさげに浮かんでいる。中央の橋から対岸に渡ることもでき、季節の風景を眺めながら散歩するのが気持ちいい。途中、榑原神宮御鎮座以前からの地に祀られている長山稲荷社もあるので、忘れずにお詣りしてお

榑原 おすすめスポット



かつて「大和の金は今井に七分」といわれるほど繁栄した今井町は、現在も大半の町家が江戸時代の姿を残している。その歴史を伝える華薨で情報収集してから町を散策しよう。

今井まちなみ 交流センター 華薨

市井の人たちの手によって建てられ守られてきた庶民信仰の篤いお寺。春と秋には境内一面にバラが咲き誇り、シーズン中にはおふさ観音内にある「茶房おふさ」で庭園を眺めながらお茶を楽しめる。



おふさ観音



創業明治11年のだんご庄のお団子は一本一本手づくり。創業当時から変わらぬ製法で、榑原市民なら一度は食べたことがあるといわれる素朴な味わい。1本80円。

だんご庄

じんむてんのう 第一代天皇 神武天皇 とは



天照大御神(あまてらすおおみかみ)は葦原中つ国(地上界)を子孫が永遠に治めるべき国として、邇邇芸命(ににぎのみこと)を日向高千穂に降らせる。その後、邇邇芸命から数えて四代目にあたる神武天皇[正式には神日本磐余彦火火出見天皇(かむやまといわれひこほほでみのすめらみこと)]は天照大御神の御心をさらに広げるため東遷の旅につき、6年の歳月を費やして畝傍山(うねびやま)の東南榑原の地に宮殿を造り、第一代天皇となられた。これが日本の始まりといわれる。

今回の旅で 購入したお土産



金鷄みくじ

榑原神宮の授与所で引くことができるおみくじ。金鷄とは金色のトビ(とんび)のことで、おなかの緑の葉は社紋である榑の葉。鮎をモチーフにしたおみくじもある。



「鷄野さらら」と「磐余彦」 榑原にちなんだ和菓子を扱うお菓子処「美松」の名物。特に鷄野さららは第2回榑原みやげもの発掘グランプリを受賞した逸品。



▲藤原京跡

DATA

- 榑原神宮 榑原市久米町934
- 大神神社 桜井市三輪1422